

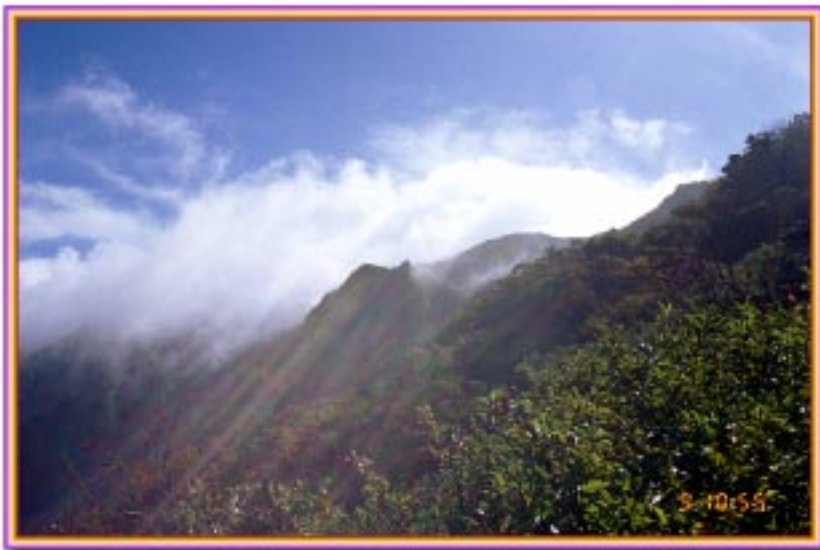
# 大山 & 白山

1999.10月9日～12日

この3連休は夏のお盆以来の週末、それも連休が快晴を天気予報だ！。お盆休みからどうも天候不安定で恵ま  
れずじまいで山行きは断念していたのだが、やっとのことで好天気が訪れてきた。

当初の計画は、あのX-Adventureで魅せられた後ろ立山連峰の鹿島槍の相似峰や爺ヶ岳に登る予定であっ  
た・・・扇沢から入山して八方尾根から下山の予定であった。

しかし、我が女房「ちか子姫」が、この土曜日は休みだから大山に登ってみたい、と言うので急遽変更して、  
9日は大山日帰り、10-11日は白山に登る計画を立てたのである。



ガスにかかる剣が峰方面



北アルプス方面の大雲海とご来光

..... 大山登山 .....

9日 晴れ

メンバー・・・大塚賢一 44才・ちか子 41才

彼女にとっては、何を隠そう登った山は、雪彦山、笠形山くらいなもので、この大山が100名山の第1番登山である。

我が家をAM4時半出発で、約2時間半ほどで、大山ふもとの駐車場に到着する。しかし、山頂付近はガスで覆われて残念ながらその美しき姿が見えないのが残念である。

「まゝ、今日は快晴に向かうとの予報だから、山頂ではきっと皆生の街や弓ヶ浜が見渡せるだろう」と言って、意気揚々と登りだした。



ブナ樹林帯

我が女房ながら、感心するのは殆ど休憩も取らずにマイペースでさっさと登って行くのには正直驚いたしである。現に山頂まで2時間10分ほどでたどり着いてしまった。これにがさすがの私も脱帽である。

山頂には、50～60人がもう登頂していた、まるで山頂銀座である。景色はやはり早朝と同じくガスで覆われて周りの景色は何も見えない。少々がっかりであるが、当の本人は、「その美しい景色は次回の楽しみ



大山山頂

にとっておく」と何もがっかりした様子はない。

時間もまだ10時前なのでラーメンタイムにするのは時間も早いので、バーナーを取り出して、熱いコーヒーをおいしくいただいた。しかし、この山頂付近一帯のキャラ

木帯には不思議な涵養を覚える。

「四季通じ

緑豊かな  
キャラ木」

「風雪雨

日々崩壊  
縦走路」

下山は、天候もよくなってきたせいであろうか、ものすごい数の登山者が登ってきているので、狭い道なのでなかなか進むことが出来ず、登りより遅く時間がかかってしまった。6合目付近から行者道にコースをとり、ブナの樹林帯の中をフィトンチップを体一杯に浴びて清々しい気分である。紅葉にはあと2週間くらいか？。

下山途中で大山名物のあの片手にいつもうちわを持っている、「天狗女」にまたもや後ろからすごい勢いで抜かされて、あっという間に見えなくなってしまった。どうやらあの女性は開法行をしているらしい。しかし、今日のように視界の悪い日でもあのとんでもない危険な縦走路をこなしてきたというのはやはり「天狗」である。

駐車場にたどり着いたころには山頂付近もすっかりとガスも取れ最

白山登山

10/10-11

天候・晴れ

メンバー・・・大塚賢一 44才 田中彰 26才

コース・・・別当出合---砂防新道---トンビ岩---室堂---白山山頂---室堂---展望歩道---南竜ヶ馬場---別山---三ノ峰---杉峠---三ツ谷---市ノ瀬

時間・・・地図上では無人小屋の三の峰まで約14km、15時間以上のハードコースである。

荷物・・・テント・シュラフ・バーナー・ガスなどすべて私のザックに収納(15kg)

その景色は

「一望千里」の絶景のごとく「眺望絶佳」であった。



なんという素晴らしい夜明けであろうか、だ~れもない、この素晴らしい隠れテントサイトのおかげである。

別山の遙か向こうの乗鞍岳の右肩方面から金色に輝くまばゆいばかりの御来光である。

そしてその真下にはどこまでも果てしなく続く真っ白な大雲海。ゆっくりと、本当にゆっくりとその大雲海が動いているのである、神秘的としか言いようがない。そして、太陽が昇るにつれて雲海のさざ波が反射して金色に染まっていく、もう私の言葉ではそれ以上に言い表せない。今この場にいるものだけにしか与えられない大自然のご褒美である。

また、おまけに昨晩は満天の星空で一年ぶり、そう去年の9月の白山以来のダイヤを散りばめた「ミルキーウェイ(天の川)」も見ることが出来た。満足感を胸一杯に詰め込み余韻を残しながら下山に向かったのだが・・・。

今回は未踏のコースを取り入れてまたもやロングコースを設定した。このところ白山においてはロングコースが多い。最もこの連峰は北アルプスほどに険しいところは無いので、体力次第で色々設定出来るのが白山のいいところでもあるのだが・・・。

当初の予定は、自転車を持ち込んで、別当出合に荷物を車で運んでおいて、市ノ瀬に車をデポし、別当出合まで自転車を漕ぐか、ランニングで行くか、を計画していたのだが・・・、何と市ノ瀬に着くまでも無く交通規制でその手前の路上で駐車させられてしまった。また、この時期なのに市ノ瀬から別当出合までバスが運行しているというラッキーであった。これで時間も大幅に短縮されたのである。

10/10 快晴



南竜山荘

8:30 11度、1260m、別当出合をスタート。

「アキラ、ハイピッチで登るからしんどなったら合図せよ。」と言い、快調なスピードで非常に沢山の登山者を追い抜きながら、ほとんど休憩無しで南竜である。

10:30 2016m、南竜が馬場到着

ここまで来るといつもながらに景色が変わったように、気持ちも「ホッ」とする。

ナナカマドが赤く紅葉している、アオモリトドマツの緑の葉、熊笹の笹が太陽に反射を受けてキラキラとまばゆい、そして突き抜けるような真っ青な空、すべてが自然にとけ込んで素晴らしい。

室堂までの最短コースのトンビ岩コースに足を向ける。トンビ岩方面を見ても直登の登りなので、いきなり息が荒くなる。ここでアキラがバテだした。

11:10 2400m、トンビ岩到着

緑豊かなハエマツ帯であ



トンビ岩コースから別山方面

る。やっと白山(御前峰)が姿を現した。やはり、木など受け付けず荒々しい飄々とした山肌である。ここからは、とんでもない急な万才谷、芝が生えているかのようのにどかな弥陀ヶ原・・・、これらの美しき自然が白山を支えているのであろう。



山頂より緑が池と大汝峰

11:40 2448m、室堂到着

な、なんともものすごい人々である。我々のトンビ岩コースはさすがに急登なので登る人は誰もいなかったのも、この室堂に着けばビックリである。まるで都会のようだ。

また、去年は南竜の小屋を新築したばかりなのに、今度はものすごい鉄骨の巨大な小屋？を室堂に建てている・・・3年がかりだそうである。この3年間は、食事は一切まかなえないので、すべて自炊になるのに何でこんなに登山者がいるのかと、疑問である、それだけにみんながタフ(食事の用意を持って上がらねばならない)になってきたのだろうか？

ここで、ザックをデポして山頂(御前峰)に向けて軽やかな歩調で登って行く。



山頂より別山方面

12:05 2702m、山頂着

白山山頂は山頂銀座である。100人は軽くいるである



白山山頂より穂高連峰

う。

今日は真っ青な空に浮かぶ雲もまるで絵に描いたように鮮明でクッキリと、また北アルプスの穂高連峰、乗鞍岳、御嶽山がはっきりと肉眼で確認できる。こんなに鮮明なのは珍しいだろう。それぞれにビデオやカメラのシャッターで忙しい。昨日の大山とは大違いの景色である。

また、今から行く別山方面は雲が多いが非常にいい光景である。しかし、あんな所まで今から行くのか・・・、それほどにとんでもなく向こうに見えるのである。

12:35 2448m、室堂着

「アキラ、昼はラーメンを食っている間は無いわ！。行動食だけで今すぐに出発するで～」と言って、展望歩道に足を進める。

13:10 2245m、アルプス展望台到着

三方崩れ山が痛々しく浸食しているのがはっきり見える。

13:38 2016m、南竜が馬場到着

今から水場が無いのでここで水を補給する。この山は2500m付近でも水が豊富なので大助かりなのである。そのせいもあって登山者が多いゆえんであろう。

別山までの距離は4.7km。三の峰までの距離7.6kmの道標表示である。しかし、目の前にはばかり油坂はつづら折れの道で南竜から一端、沢まで降りての登り返しなので、非常に大きく急登である。来年の5月はこの油坂を滑りたいものだ、と今から構想を描いている。

10分も行かないうちに、我々と同じく三の峰まで行く予定だったが、「もうこの時間なので折り返して来た」と言うパーティに出会った。そのパーティは「三の峰まで6時間以上かかる、また三の峰の避難小屋



別山から主峰

は満員だ。」と言われたので引き返したそうである。そこで、我々は「そこまで半分の3時間で行く。テント持参だから大丈夫。」と言ったら、「・・・」であった。



夕焼けに染まる別山と白山

まあ実際は山での行動は1kmが1時間と予測をたてるのだから仕方がないのであろう。

15:13 2315m、別山とチブリ尾根の分岐

ここまで、近いようで本当に遠い遠い道のりで少々疲れ気味であ

ここから見える別山はまた格別である。その表面は一枚のスラブ岩で成り立ち、威風堂々としていて、かと言えばその周りは緑に覆われて暖かみを感じる。主峰白山とはまた違った雰囲気をかもし出している。私はどちらかと言えばこの別山が気に入ってしまった。



テントサイトから別山と御手水池

早速テント設営し、夜の冷えに備えてフリースなどを着込む。アキラもこのところいいグッズ類を購入していて装備も本格的になってきた。

17時過ぎ別山に夕日が当たり、真っ赤に染まる・・・「風光明媚」その言葉が実によく似合う。

食事の用意も出来たので・・・今日初めて腰を落ち着けての食事である。肴は贅沢にウインナーとベーコンを炒め、ビールで乾杯である。この上ない素晴らしい景色に囲まれて、まさに至福のひとつときである。

18時ともなると、もうあたりは暗く早々にテントに入る。「今晚は最高のダイヤが見れるぜ～」と言いつつ30分も経たない内に二人とも夢の中に入ってしまった。

ものすごくよく眠ったと思い、ふと目がさめるとまだ22時半であっ

る。

昨年に早人と来た時はここから下山したので、ここからは私もバージョンルートである。

15:27 2394m、12度。霊峰別山山頂到着

ここから見える白山方面は少々ガスってはいはいるが、時々晴れ間に見せる顔は今までに見たことがない角度からなのでまた違った顔である。

三の峰まで距離2.9kmの道標。しかし、小屋は満員なのでいい所があればテントを張る予定である。

16:00 御手水池到着

抜群のテントサイトである。別山から約30分ほど下ったところにまわり一面が熊笹で覆われ、鏡のような池（御手水池）があり、その一帯は芝草が生えわたり、自然のじゅうたんのようである。ここにテントサイトを構えることにした。当然に周りにはだれもいない。静かそのものである。

た。早速に外の様子を見にテントの外に出てみると、少し霧ってはいるものの、やはり期待通りのダイヤが空一杯に散りばめられている。「オ～イ、アキラ満天の星空や!」。やはり一年ぶりに見る「ミルクウェイ」には圧倒される。

10/11 快晴

5:00 6度、起床

あたりはまだ薄暗いが東空は赤くなっている。この時期は氷点下になるのに非常に暖かい。

早々にテント撤収作業にはいるが、何と夜露で濡れてベトベトかと思っていたのに、全然すっきりとしたものである。昨晩は風も無かったのに不思議である。Air dryになっているのだろう。こっちはその方が好都合なのである。濡れていたらその分1kgは重くなるのだから・・・。

5:54 北アルプス方面からの御来光である

夕べの夕焼けで赤く染まった別山が今度は朝日で赤く染まって・・・まさに雲海を漂っているかのようだ。「一望千里」の絶景のごとく「眺望絶佳」である。



6:50 下山準備完了。  
朝日を背に受けて三の峰方面に向かっていくと、続々と登山者に出会う。それも元気なオバさん達だ、この雲海に漂流する別山を眺めてみんな大歓声で

あった。しかし、こんな人たちともし一緒に三の峰避難小屋に泊まっていたらたまったものではない。何処の山に行っても出会うオバタリアンはすごく元気一杯である。

やはりここにテントを張っていてよかった。また早々に撤収したのも正解である。

7:30 三の峰到着

やはりここからでも北アルプス穂高連峰、そして大雲海がはっきりと見える、また別山、白山、剣が峰、大汝とすべて見渡せる。360度の大パノラマである。みんなはここからたぶん、御来光を拝んだのであろう。

7:37 三の峰避難小屋到着

2-3年前に建て替えたらしく、非常にどっしりとしていて素晴らしい小屋である。しかし昨日ここに20人がすし詰め状態で泊まっていたと思うと・・・。



三の峰からの下山ルート

9:28 杉峠分岐に到着

三の峰小屋からはものすごい急坂でまるで「小豆転がし」のようであった。しかし、それを過ぎればブナ林の樹林帯の中を延々と高度も一定で長い長い道のりであった。

途中に六本槍の分岐を過ぎたが、他の登山者はここからの登ってきているのだと言っていた。この下へ1時間も下れば駐車場があると言う。我々の下山コースを説明すると、あっけにとられていた。白山でこの縦走コースをとる人は相当の健脚でなければ・・・、「あのコースは悪道やから・・・」と。実際に地図の上でも「点線」である。

杉峠分岐から三ツ谷方面の道はほとんど人が入っていないらしく、相当のヤブコギのようである。

### 10:45 三ツ谷分岐の林道に到着

しかし、この約1時間ほどの道のりは足場は悪いし背丈ほどの熊笹で視界が悪く、道らしい道がなくけもの道のような道である。まためかるんでいるので、谷に滑り落ちるところばかりと言っていいほどに油断が出来ない。アキラもこんな悪路は慣れていないようでよく転んでいた。

林道に出れば、標識など何もなくて何処からが登山道になっているのか分からない、とんでもないルートである。ひとたびガスが出れば山で迷ってしまうことは必須であろう。

### 11:23 市ノ瀬駐車場到着

行動予定バッチリの時間である。

しかし、今の逆コースから三の峰・別山へと登るのは、非常に勇気がある判断である。そんなにもこの3時間は苦痛と言っていいほどであった。

何はともあれ、2日間ともに素晴らしい天候に恵まれ、新しいコースで無事縦走出来た事に感謝するしだいである。

そして美しき別山にキャンパイ！！



ルート地図・・・1/50000

青い線が今回のルートである。